

佳作

大好きな笑顔

福岡県 福岡教育大学附属福岡小学校四年 渡邊 創士

「いつてきます。」

ぼくは今年、昨年の夏と同じ高知のキャンプに行つた。ここに行くつと、なつかしい先生に会える。二才からずつとお世話になつていた習い事の先生だ。その先生は、昨年福岡から高知に仕事でうつつてしまつた。

ぼくは高知につくと、まっ先に先生のいる所へ走つて行つた。すると、先生から

「よく来たね、元気にしつたか。」
ときかれた。ぼくは元気よく

「はい元気です。」

と答えた。先生の笑顔は昨年と変わらずやさしくて、先生の元氣そうなすがたにぼくはほつとした。

先生のおこつた顔は見たことがない。ぼくが、お母さんにおこられて落ちこんでいる時も、学校で友

達とケンカしてイライラしている時も、習い事に行けば先生はいつも笑顔で出むかえてくれた。ぼくは、その笑顔のおかげでいやな氣分を消すことができた。福岡を出る時、家族とはなれるのは少しさみしかつたけれど、先生がいたおかげで九日間という長いキャンプがあつたという間に過ぎていつた。

このキャンプでは、みんなが喜ぶことをすれば、バッチがもらえらうというルールがあつた。ぼくは先生にバッチをもらうために、トイレのスリッパをきれいにそろえたり、ほかのはんのつくえを台ふきでいねいにふいたりして、全部で十二個のバッチを集めた。最初はただバッチがほしくてやつていたけれど、先生からバッチを一つもらうごとに、先生がやさしい笑顔でほめてくれた。それがうれしくて「またがんばらう」と思い、自分から「友達の役に立てることはないかな」「だれかこまっている子はいないかな」とさがして、手伝うようになった。この十二個のバッチは先生からもらった笑顔のようで、大事につくえの引き出しの中にとまつてある。

先生は、別れる時に

「お父さんやお母さんお姉ちゃんを大事にしろよ。」と笑顔でぼくの手を強くにぎりしめた。先生の大好

きな笑顔とあたたかい手のぬくもりで、不思議と別れのさみしさを感じなかった。

笑顔には、人を元気にしたり、安心させたり、周りの人達をしあわせにするような力があると思う。ぼくが先生の笑顔に元気をもらったように、今度はぼくが笑顔ですごして周りのみんなに元気を分けてあげられればいいなと思う。そして、また先生に会いに行く時には先生と笑顔で会いたい。